

SDGs未来都市等進捗評価シート

2018年度選定

愛知県豊田市

2021年8月

SDGs未来都市計画名

自治体SDGsモデル事業
又は特に注力する先導的取組

豊田市 SDGs未来都市計画

-

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

豊田市 SDGs未来都市計画

(2) 2030年のあるべき姿

“つながる つくる 暮らし楽しむまち・とよた”の実現
 「市民」…社会とのつながりの中で安心して自分らしく暮らす
 「地域」…魅力あふれる多様で豊かな個性
 「都市」…未来を先取る活力を持つ

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



(4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2020年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	家事の夫婦の役割分担の現状 「家事全般を夫婦共同で行う」と回答した人の割合（市民意識調査）【5.5】	2013年度 21.2 %	2021年3月 ※5年に1度の調査であるため、2018年度調査実績を掲載 25.6 %	2030年 30 %	50%
2	新製品、新技術等開発の取組件数（累計）【8.3】	2018年3月 9 件	2021年3月 43 件	2030年 70 件	56%
3	女性しごとテラスにおける就職件数【8.5】	2018年3月 1 件	2021年3月 97 件	2030年 100 件	97%
4	就労支援室における就職件数(年間)【8.5】	2018年3月 292 件/年	2021年3月 254 件/年	2030年 290 件/年	88%
5	中核製材工場における原木取扱量（年間）【9.4】	2018年 新規	2021年3月 36,783 m ³ /年	2030年 45,000 m ³ /年	82%
6	農商工連携取組件数及び6次産業化認定事業者数の件数【9.4】	2018年3月 31 件	2021年3月 54 件	2030年 45 件	164%
7	先進技術実証 新規の実証事業（交通まちづくり・つながる社会実証）【9.4】	2018年3月 交通まちづくり 4件 つながる社会実証 8件	2021年3月 交通まちづくり 8件 つながる社会実証 12件	2030年 毎年度 計3件	667%
8	交通安全の意識が高まった高齢者の数（市啓発分）【3.6】	2018年3月 13,293 人	2021年3月 ※2017～2019の累計、2020年はコロナの影響により数値なし 21,337 人	2030年 毎年度5,000人以上	100% ※21,337人を4年で割ると毎年度5,000人以上の目標を達成しているため
9	都市と山村の交流コーディネート件数（累計）【11.a】	2018年3月 48 件	2021年3月 248 件	2030年 累計560 件	39%
10	山村地域へ移住・定住者数（市支援分）【11.a】	2018年3月 229 人	2021年3月 145 人	2030年 260 人	-271%
11	豊田市つながる社会実証推進協議会 会員数（累計）【17.17】	2018年3月 52 団体	2021年3月 ※2020年度9団体加入 83 団体	2030年 3 団体/年 加入	300%

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2020年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
12	再生可能エネルギーの総発電能力量（市導入・関与分）【7.2】	2018年3月 88,997 kW	2021年3月 106,793 kW	2030年 110,000 kW	85%
13	環境配慮行動に取り組んだ世帯数（市事業分）【12.8】	2017年3月 31,536 世帯	2021年3月 ※2020年3月末時点。2021年は制度変更により数値なし。 31,049 世帯	2030年 58,700 世帯	-2%
14	広域連携及び先進技術実証事業の件数（累計）【13.3】	2018年3月 8 件	2021年3月 ※2017-2020年累計 先進技術実証36件 広域連携16件	2030年 20 件	367%
15	人工林の間伐実績面積（年間）【15.4】	2018年3月 969 ha/年	2021年3月 919 ha/年	2030年 1,200 ha/年	-22%

(5) 「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

4.5.7.11の指標で（計算式）現状値/目標値 を使用

8の指標については、現状値を4年で割り、1年あたりの平均値を出すと、毎年度5,000人以上の目標値を達成しているため、100%とする

【進捗が思わしくない指標】

- ・10「山村地域へ移住・定住者数」については、山村地域の移住定住支援の拠点となるおいでんさんそんセンターや各支所と連携し、更なる情報発信やニーズ調査、他地域との差別化に取り組む。
- ・13「環境配慮行動に取り組んだ世帯数」については、2020年度中に制度を改正し、環境配慮だけでなくSDGsに関連する全ての行動を促進する内容へと見直し、運用している。
- ・15「人工林の間伐実績面積（年間）」の増加を図るため、森づくりを担う人材（特に森林作業員）の確保・育成を強化している。

【進捗が順調な指標】

- ・7「先進技術実証 新規の実証事業（交通まちづくり・つながる社会実証）」の進捗は順調であり、引き続き技術や社会受容性、安全性などの検証のための実証実験を推進する。

情報発信・普及啓発：SDGs 国際会議をオンラインで開催。国内は47都道府県、海外延べ3625人が視聴した。

SDGs 国際会議にむけた機運醸成のため、SDGsに関するオンラインセミナーを4回実施した。

ステークホルダーとの連携：2019年11月に発足したとよたSDGs パートナーが2021年3月末時点で253団体となった。

SDGs 国際会議にも15団体のパートナーが登壇し、半年に及ぶワーキングの成果を発表した。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2018年～2020年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2020年目標値	達成度(%)	
1	① 地域資源・人材・技術を生かした多様なビジネスの創出	女性の活躍を支援する取組が役立ったと感じた参加者の割合（市実施分）	2018年3月 75%	2018年度 94%	2019年度 96%	2020年度 98%	2020年 70%を維持	139%	
2		新製品、新技術等開発の取組件数（累計）	2018年3月 9件	2018年度 20件	2019年度 30件	2020年度 43件	2020年 30件	162%	
3		女性しごとテラスにおける就職件数	2018年3月 1件	2018年度 100件	2019年度 116件	2020年度 97件	2020年 100件	97%	
4		就職支援室における就職件数（年間）	2018年3月 292件/年	2018年度 302件/年	2019年度 304件/年	2020年度 254件/年	2020年 290件/年	88%	
5		人工林の間伐実績面積（年間）	2018年3月 969ha/年	2018年度 960ha/年	2019年度 821ha/年	2020年度 919ha/年	2020年 1,200ha/年	-22%	
6		中核製材工場における原木取扱量（年間）	(2018年新規) 新規 m ³ /年	2018年度 15490 m ³ /年	2019年度 31704 m ³ /年	2020年度 36783 m ³ /年	2020年 35,000 m ³ /年	105%	
7		先進技術実証 新規の実証事業（交通まちづくり・つながる社会実証）	2018年3月 4件 つながる社会実証 8	2018年度 5件 つながる社会実証 9	2019年度 5件 つながる社会実証 6	2020年度 8件 つながる社会実証 12件	2020年 毎年度 計3件	667%	
8		② まちといなかの魅力、人のつながり、生きがいの創出	都市と山村の交流コーディネート件数（累計）	2018年3月 48件	2018年度 128件	2019年度 120件	2020年度 248件	2020年 160件	179%
9		豊田市つながる社会実証推進協議会の会員総数	2018年5月 52団体	2018年度 65団体	2019年度 73団体	2020年度 83団体	2020年 61団体	344%	

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2018年～2020年

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

「宣言」及び「登録」制度として2019年11月にとよたSDGsパートナー制度を構築し、運用を開始した。
自律的好循環を形成するための工夫として、ロゴマーク配布やワーキング実施、契約における豊田市総合点の加点対象とする等を行っている。
また、地方創生SDGs登録・認証等ガイドラインを参考に「認証」制度の構築についても検討中。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

1.4..6の指標で（計算式）現状値/目標値 を使用

【再掲】5「人工林の間伐実績面積（年間）」の増加を図るため、森づくりを担う人材（特に森林作業員）の確保・育成を強化している。

【再掲】7「先進技術実証 新規の実証事業（交通まちづくり・つながる社会実証）」の進捗は順調であり、引き続き技術や社会受容性、安全性などの検証のための実証実験を推進する。

豊田市は都市と山村の相互連携を通じて課題解決やSDGsの推進に取り組んでいる。都市部の「豊田市つながる社会実証推進協議会」と山村部の「おいでんさんせんセンター」を2大プラットフォームとして相互の強み弱みを活かし、補いあひながら課題解決に取り組んできた。2019年には、「とよたSDGsパートナー」の制度運用を開始し、現在は「豊田市つながる社会実証推進協議会」「おいでんさんせんセンター」「とよたSDGsパートナー」の3つのプラットフォームが繋がりながらSDGsやスマートシティの推進に取り組んでいる。

(4) 有識者からの取組に対する評価

- ・社会実証推進協議会やSDGsパートナーの取組は具体的であり、評価できる。
- ・自律的好循環の取組の考え方に関して改善の余地がある。金融機関も巻き込んだ地域経済活性化の視点が十分示される必要がある。
- ・環境配慮行動に取り組んだ世帯数が減少しているが、これは実際に取り組んだ世帯が減ったのか、それとも指標の性格上コロナ禍で様々なイベントができないことなどが影響しているのか、検証が期待される。前者の場合、その要因を精査した上で、対策を行う必要がある。後者の場合は、指標の取り方を改善する必要がある。